

眼内レンズ選択の 実践知

～設計コンセプトと術者の視点～

日時 2026年10月29日(木) 15:10～16:00

場所 第7会場 国立京都国際会館 1F RoomD

座長

筑波大学医学医療系特任教授 **大鹿 哲郎 先生**

古代ギリシャ哲学に由来する「実践知(プロネシス)」とは、単なる一般理論にとどまらず、個別具体的な状況において最善の行動を判断する知恵を指します。医療、特に多様な背景を持つ患者に対する眼内レンズ(IOL)選択は、まさにこの「実践知」の極みと言えます。

興和のアバンシィはシリーズ発売より20周年、1ピースタイプ発売より10周年を迎え、独自の光学特性や形状の設計コンセプトが臨床の場で広く受け入れられております。本学会に合わせて新発売されるアバンシィプリロード1Pの改良型インジェクター(YP2.2V)は、さらなる操作性の向上を目指した一歩であり、その設計コンセプトと、他疾患を専門とする術者の視点から、明日の臨床につながる実践知を共有するのが本セミナーの目的です。

まず、秋元正行先生(大阪赤十字病院)より、新インジェクターの設計思想と使用経験に基づく評価についてご講演いただきます。続いて中静裕之先生(日本大学病院)より、網膜硝子体トリプル手術におけるIOL選択の留意点や術後屈折誤差の最小化についてお話しいたします。最後に谷戸正樹先生(島根大学)より、緑内障併発例でのIOL選択や術後眼圧管理、MIGS同時施行時の注意点など、緑内障術者ならではの視点をご提示いただきます。

本セミナーが明日からの臨床の一助となれば幸いです。

演者

1

大阪赤十字病院 眼科主任部長 **秋元 正行 先生**

操作性の向上を目指したYP2.2Vインジェクターの実践知

演者

2

日本大学病院 眼科 教授 **中静 裕之 先生**

硝子体トリプル手術と眼内レンズ選択

演者

3

島根大学医学部眼科学講座 教授 **谷戸 正樹 先生**

緑内障術者からみた眼内レンズ選択